

令和元年度 第2回 よこすか地域支え合い協議会 会議録

開催日時：令和元年8月6日（火） 午後2時より午後4時まで

開催場所：横須賀市役所5階 正庁

出席者

【構成員】 16人

稲葉 抄子、森 弘樹、沼崎 真奈美、小林 二三代、春山 誉夫、磯崎 順子、
小川 喜久雄、加藤 春樹、長雄 市子、佐野 美智子、千葉 順子、和田 浩（代理出席）、
小貫 朗子、古谷 久乃、田中 知己（順不同、敬称略）、伊藤 弘道（記）

【オブザーバー】 1人

長島 秀夫（敬称略）

【事務局】 6人

小林 幸男、河島 夏美、川田 貴久江、中山 ちひろ、馬場 潤、浅羽 優貴佳（敬称略）

【傍聴者】 なし

1. 開会

座長の司会により開会した。

2. 傍聴者の確認、配布資料の確認

欠席者、代理出席者、オブザーバー、傍聴者の確認を行った後、配布資料を確認した。

3. 議事

（1）周知啓発について

6月に開催した支え合いの地域づくり講演会について高齢福祉課が報告した。家族とケアマネージャーが、地域のつながりも考慮し、役割分担することが議論された。

高齢福祉課の取り組みでは、周知啓発を一層推進するための意見が出された。市内で開催される各種イベントでのパネル展示など、露出機会を増やすこととなった。

【支え合いの地域づくり講演会】（資料1）

事務局：支え合いの地域づくり講演会を6月23日に開催した。121名が参加し、60%以上の方が、支え合い活動への参加に前向きとのアンケート結果を得た。

構成員：支え合い活動に取り組むことは難しいが応援したい、という方が18人いる。
取り組むことが難しい理由は何か。

事務局：ご自身が高齢で体が動かしにくいことが理由である。

構成員：取り組みに前向きな人達が、今後の人材育成に参加していただけるのか。

事務局：アンケートで今後の情報提供を希望された方に、地域の情報をご案内する。

併せて、各地域で開催する支え手養成研修にご参加いただく。

構成員：アンケートの「ケアマネージャーと民生委員のつながり」とは何か。

事務局：デイサービスに行くと地域とのつながりが切れてしまう、という話があった。民生委員や住民とのつながりを知る方法について、参加したケアマネージャーが記述した。具体的な対応について、話がなかったための質問である。

座長：介護サービスを受ければ安心して、民生委員など地域との関係は卒業だという考えは違う。民生委員や介護事業所が連携し、自宅で暮らす人を見守るのがよい、という講話だった。来場者も新たな気づきがあったと思われる。

構成員：地域とのつながりが一番大事である。

構成員：サービスは生活のごく一部。ヘルパーは一週間に何回という頻度。地域とつながっていないと、生活が成り立たない。

構成員：圧迫骨折した人を地域で支援したが、ケアマネージャーとの連携はなかった。地域が把握している情報を受け取る仕組みが必要だ。地域で担う範囲や期間、介護につなげる方法など、素人にもわかる指針を示して欲しい。

構成員：ケア会議がある。個別ケースは役割分担してやっていく。素人ができないことは、地域包括支援センター（以下、「包括」という。）などを含めて対応する。

構成員：ケアマネージャーは地域が見えにくい。地域とケアマネージャーと家族が集まり、お互いに役割を決める。どちらかが疲弊しては、支え合いでなくなる。包括などを利用しながら取り組むのが良い。

構成員：老人クラブ連合会の「友愛チーム」は、独居老人と高齢のご夫婦を見守っている。手術や退院といった情報はリーダーが把握し、民生委員と連携している。介護サービスと併せると豊富な情報がある。老人クラブとの連携を考えて欲しい。

座長：講演会の趣旨は、地域と施設の分担は、全てかゼロかではないということ。お互いに助け合うことが大切ということで、話が出たと思う。横須賀の特徴や助け合いを踏まえ、力が合わせられるよう発展できると良い。

【高齢福祉課の取り組み】（資料2）

事務局：周知啓発に関する高齢福祉課の取り組みについて報告があった。支え合い活動団体紹介パネルや活動紹介動画、報道機関等との連携による告知、高校の行事や福祉専攻コースとの連携、などが主な内容となる。

構成員：11月16日（土）に県立保健福祉大学（以下、「県大」という。）で横須賀地域包括ケアフォーラムがあるが、高齢福祉課は入っていない。なぜか。

事務局：承知している。当該フォーラムでもパネル掲示などを考えている。

構成員：支え合いの説明会などは考えないか。できる範囲で話をして欲しい。

構成員：11月16日（土）10時から15時まで、県大で生涯現役フォーラムがある。講演会、相談会、展示などの内容となる。高齢福祉課は、認知症サポーター養成講

座とパネル展示でかかわる。

構成員：生涯現役と地域包括ケアの二つフォーラムが県大で同時開催されるのか。

構成員：その通り。同じ会場で同時開催されると聞いている。

構成員：地域包括ケアフォーラムの主催はどこか。

構成員：地域医療推進課が主催する。

構成員：在宅療養連携会議が医師会、薬剤師会、栄養士会に講演や出展を募った。民生委員も参加し、市民生委員児童委員協議会が周知する。ケアマネージャーも参加する。

座長：9月21日（土）に神奈川歯科大学で開催する認知症フェスタを高齡福祉課が担う。専門医の講演や展示などを企画している。生涯現役フォーラムは地域医療推進課と役割分担する。県大では複数イベントを大々的に開催する。

構成員：多くのイベントがある。その場所でパネルなど展示するということか。

事務局：生涯現役フォーラムでは、パネル展示、PR動画上映を調整している。

構成員：9月21日の認知症フェスタはどうか。

事務局：9月21日は基本的には認知症がテーマであり、支え合いのパネルは考えていない。認知症のコミュニティに関するパネル展示を考えている。

構成員：認知症と支え合いとで、対応を分けるのか。イベントごとに対応を切り分けるのは、狭くならないか。関わっている人は同じ。非常に疑問である。

事務局：もともとだが、まだ地域が育っていない。9月21日は認知症がテーマ、混ざると焦点がぼやける。

認知症予防を強調しすぎると、認知症への偏見を助長する。基調講演は、「認知症フレイル」、フレイルからの認知症予防。認知症を前面に出すことなく、最終的には誰もが通る道であることを示す。

構成員：誰に向けてそれを提示するのか。

事務局：一般市民である。

構成員：理解してもらおうということか。

事務局：その通り。認知症予防は、集客力がある。認知症にならないためにはどうしたら良いか、という期待がある。しかし、老化は避けられない、自分事にしようという取り組みである。予防すればできる、という話にはしたくない。

構成員：認知症を理解するということか。

事務局：その通り。希望と理解がつながるようなかたちで展開したい。

座長：認知症の当事者や予防がテーマである。認知症視点から地域の支え合いとして、周知できないか。チラシを置くなど、できることを工夫したい。

構成員：認知症フェスタは神奈川歯科大で開催するのか。

事務局：その通り。神奈川歯科大には認知症外来がある。レビー小体型認知症専門の眞鍋医師に基調講演を依頼する。認知症の先生が他にもいる。先生の派遣と会場提供で、神奈川歯科大に協力して貰う。

構成員：学生は参加しないのか。

事務局：参加しない。

構成員：県大を含めて地域の大学を使うのだから、若い方に参加して貰いたい。
また、認知症フェスタであるが、認知症当事者も支え合いに参加したいと思っている。
パネル展示くらいはできないのか。

構成員：一般市民が対象のイベントであるなら、展示すべき。スペースはあるはず。
機会を増やすべき。

構成員：一人暮らしや夫婦二人暮らしでは、かなりの確率で認知症がある。地域との
関係性で自分の状況を認識し介護サービスの利用など、次の道に進む方も多
い。離れて暮らす家族には日々の細やかな行動の変化に気付かない人が多い。

座長：縦割りにはならないつもりでいる。認知症の情報を地域の助け合いにつなが
るようことは情報提供する。

事務局：地域包括ケアフォーラムは、在宅療法連携会議で出展募集をし、チラシもで
きている。説明会としての出展はできない。パネル展示について検討する。

座長：生活に役立つ地域の情報は、横須賀市ホームページから見るができる。
構成員の所属団体等のホームページで、リンク集に登録いただけるようであ
れば、高齢福祉課に連絡して頂きたい。ご協力をお願いしたい。

(2) 支え合い活動への支援について

支え手養成研修会は、10月に大津、12月に田浦で開催予定である。その後、地域座
談会を開き、支え手希望者を支援する。また、支え合い団体には、学習会と情報交換
会を開催し、安全確保や団体運営の経験などを共有することで活性化を図る。

これに対し、ひとつの芽を育てるように、一人ひとりに対して相談会を開くことが
有効ではないか、との意見も出ている。

【支え手養成研修会】(資料3)

事務局：支え手養成研修会(以下、「研修会」という。)は、地域活動への参加者拡大が
目的であり、研修を修了した希望者を地域座談会に案内して支援する。
介護予防や認知症のサポーターなど、市の講習修了者にも開催を案内する。

構成員：研修会開催後の支え合い団体結成の実績、活動改善の具体例はあるか。

事務局：昨年度の追浜地域では、約40名が参加、多くが民生委員であった。団体立上
げ、新たな活動者とも実績はない。1名をボランティアセンターにつないだ。
研修後のフォローが課題であり、対応について地域支え合い協議会(以下、「地
域協議会」という。)と検討する。

構成員：一般市民の参加をどのように促すのか。

事務局：大津では、民生委員から各町内会長に依頼し、全戸回覧や掲示板で周知する。

構成員： 大津で何かやりたそうな人がいる、という情報を拾えないか。

事務局： 一般市民向けの講演会を2回開催している。しかし、活動希望者を把握はできていない。多くの方に目に触れるよう周知する。

構成員： 民生委員だけでなく、一般市民の参加につなげるのが課題である。

事務局： 周知方法を工夫する。講演会で情報提供希望者を把握した。研修会に続く地域座談会で意識醸成する。単発の研修ではなく、繰り返すことで地域を支える凝集性を高める。広報と具体的な支援を噛み合わせる。

構成員： 今年11月に民生委員の任期更新の時期が来る。保護司や民生委員は75歳で退く。退任後も活躍したい人もいるので、案内を出す対象では。後期高齢者は、中心的に活動できないが、団体とのマッチングなどで、活動できる可能性がある。

事務局： 新たな方に来て欲しい。できることがないか、考える。

構成員： 支え合い団体を立ち上げようと地域でアンケートをとると、ボランティアをやりたい人が多い。その方々が研修に参加できたらよい。

座長： 敷居を低くして接点を広げる。地域で役に立ちたい人に出てきて貰う。研修会やフォローについて工夫する。

構成員： 町内会の回覧と掲示板でPRするなら、町内会役員に研修会趣旨をどのように理解して頂くのか。民生委員を通じて町内会に依頼するというが、町内会に伝わるのか。町内会の集まりなどに出向いて告知すべきではないか。

事務局： 地域協議会と検討した結果、民生委員を通じて町内会に願うことになった。連合町内会には定例会の時期が合えば相談したい。

構成員： 研修会は支え手を広く募る方法。一つの芽を核として大きく育てる方法の方が、早いと考えている。試すのはいかがか。

事務局： 個別アプローチとしては、2名の生活支援コーディネーターが関わっている。全体と個別の両面から取り組む必要性は理解している。

【支え合い団体学習会・情報交換会】(資料4)

事務局： 支え合い団体学習会(以下、「学習会」という。)は、生活支援団体を対象として10月9日(水)に開催する。活動の安全や参考情報で構成する。

情報交換会は、ノウハウや課題を共有することで、円滑な活動に資することが目的である。12月上旬の開催で調整している。

構成員： 生活支援団体とは何か。

事務局： 家事である掃除や調理、庭木の剪定や雑草とりなどを支援することを、生活支援としている。それに取り組む団体が生活支援団体である。

構成員： 生活支援団体は高齢福祉課に登録されているのか。

事務局： 補助金を交付している生活支援団体は、高齢福祉課で把握、公表している。補助金非交付団体は、包括の情報や聞き取りにより団体数を計上している。

構成員：生涯学習センターでは、学習情報として団体や講師を登録頂いている。市民活動サポートセンターでも登録団体がある。情報の連携をしているか。

事務局：情報交換の特別な場はない。活動団体について情報を市民活動サポートセンターから頂くことはある。

構成員：「まなび情報」700件の中には、支援活動の希望者が多い。情報提供する。

構成員：学習会は生活支援団体の方が受講とのこと。構成員は対象か。

事務局：会場定員の都合で団体関係者となる。しかし、構成員に活動を知って貰うことは良いこと。椅子を追加するなど傍聴して頂く方向で案内を出す。

(3) 各地域支え合い協議会について

生活支援体制整備が理解できたとの地域の評価を得た資料5を用いて、地域協議会の進め方を説明した。協議体が設置されている6地域の協議会の取り組み紹介を受けて、主として支え合い団体数の相違や支え手人材発掘についての意見交換があった。

ア 大津

中学の教員や支え合い団体を立ち上げた代表などをオブザーバーに招き、広く意見を聞いて進めようとしている。

イ 追浜

団体が多い浦賀地域との情報交換や、特定の町内会に重点的に働きかけるなど、支え合い団体の立上げ推進を検討している。

ウ 田浦

18町内会で78の活動がある。人が集う場をつくること、谷戸やトンネルが多く、地域特性における共通的な取り組みについて、ごみ出しを含めて検討している。

エ 浦賀

51町内会で17の支え合い団体があり、3つの町内会で新団体が立ち上がりつつある。更なる推進のために地域講演会を計画すると共に、活動団体の実態調査を進める。

オ 北下浦

地域の支え合い活動を把握するためにアンケート調査を行う。内容や依頼先の検討をしている。依頼先には地域貢献の接点を探る民間事業者も視野に入れる。

カ 久里浜

共通課題の共有と今後の取り組みを模索している。地域内の高齢化状況からニーズを明らかにすることで、取り組み方を探る。

【各地域支え合い協議会の進め方】(資料5)

事務局：地域協議会の目的や取り組みの流れなどを資料5にまとめ、配布を始めた。持ち帰って読まれる想定で、生活支援体制整備をわかり易く解説している。

座長：協議体の進め方が難しい地域がでてくる。理解を仰ぎ、協力を申し出る趣旨である。意見を高齢福祉課に頂きたい。

【各地域支え合い協議会の取り組みについて】（資料6）

構成員：支え合いの取り組みが進む地域とそうでない地域の差は何か。時間が経過すれば同じように進むのか。地域性の違いとはなにか。

構成員：浦賀では既存の活動を良く調べている結果、多くの活動が見えている。取り組みが進んでいるようにも見えるが、他の地域と比較ではわからない。

構成員：西や浦賀は、支え合いの必要性がより高い地域ではないか。

構成員：浦賀は高齢化率が高いので、地域運営協議会が支え合いの推進に取り組んでいた。平成30年5月に地域支え合い協議会が設立され、従前からの取り組みを引き継いだ。そのため、進んでいる印象はあるが、実質的な時間経過はある。

構成員：必要性を感じていない地域もあるのか。地域性は、どうなのか。

構成員：浦賀でも必要性を感じている地区と感じていない地区がある。昔からの向こう三軒両隣の関係のある地区では、必要ないという。また、若い人が多い地区も必要ない。浦賀の中でも地域性は異なる。

構成員：地域性の違いを把握しながらやっているか。どこでも同じようにやれば良いわけではない。

構成員：協議体がない地域でも、地域支え合いガイドブックや補助金についての説明を求められる。協議体を通して進み具合を見るのはどうかと思う。

構成員：町内会単位に支え合い活動を広めるのか。

事務局：町内会単位とは示していない。地域で支援を受けるために必要な数として、支え合い団体は小学校区に一つ、通いの場は1万人当たり20か所として市全体で400か所、とこの協議体で意見を頂いた。いくつつくるかは地域の話合いで目標を設定する。

今後、6つの未設置地域に協議会をつくる。地域を代表している方からは、地縁で動いているので協議会は必要ないとのこと。一方、地域内の別地区からは、地縁活動はないので支え合いを推進する仕組みを求める声もある。

田浦地域で協議会を立ち上げる際には、昔からのつながりがあるので困ることはない、というのが地域の核となる方々の意見であった。しかし、協議の進捗に伴い、地域で支え合いの必要性に気づかれ、進めることで意見が一致した。今は、田浦地域全体を考えるようになっている。

地域の協議会を進めるには、代表される方の意識に大きく影響される。

構成員：地域のボランティアを把握しているボランティアセンター（以下、「ボラセン」という。）との関係はどのようになっているか。

事務局：ボラセンに登録しているボランティアは、無償活動である。地域の支え合いは有償とすることで、少し高い課題に対応する活動もある。

構成員：ほとんどの地区ボラセン所長は、地域支え合い協議会の構成員である。有償活動もある支え合いとの連携は課題である。また、ボラセンのあり方を検討中であり、ボランティアの受給調整機能のみではない方向で調整している。

構成員：地域人材が少ない。ボラセンと支え合いは別ではない。人の調整ができないと人が集まらず、地域が疲弊する。行政などの分野。活動団体の領域ではない。

座長：大きな課題だ。活動したい人が活動しやすい環境をつくるのが大事だ。

構成員：活動する人はいつも同じ、町内会でも別のところでも、ボランティアチームなど人材が重複し、それも70歳代中心。

座長：しっかりと議論をする。

構成員：ボラセンは市内18地区にある。支え合いは町内会などの地域で身近な単位の活動。ボラセンは無償の活動だが、支え合いができている地域の紹介で動いている。このようなマッチングの情報提供源としてやっていけるのではないかな。実際に動くのは地域の身近な人達なのだから。

構成員：地域で動く人はいつも同じ顔ぶれだ。

構成員：支え手は身近な人達である。民生委員やボラセンは、支援を要する人に情報提供している。ボランティアとつながるのは、体制が違う感触がある。

構成員：課題である。上の人は分かるかもしれないが、下の人は分からない。

座長：各地域の支え合い協議会の希望を踏まえて、調整を図りたい。課題と認識する。

3. 各構成員からの情報提供

(1) 「ゆめクラブ大学」開催案内

- ・10月17日（木） 「膝関節痛のリハビリと運動」、「東洋医学について」
- ・10月23日（水） 「尿トレのすすめ」、「口腔ケアについて」
- ・神奈川県立保健福祉大学 講堂
- ・神奈川県立保健福祉大学 講堂
- ・申込み 市老連事務局 046-821-1317

次回会議日程は、11月12日（火）14時、市役所3階 302会議室

高齢福祉課長の閉会の挨拶により会議は終了した。

※この議事録は委員等の発言の要点筆記である。